

キトラ古墳壁画の東京での特別公開について

キトラ古墳壁画は現在、明日香村にある国営飛鳥歴史公園内に設置した国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設において修理作業を実施している。

修理作業は、カビ等のクリーニング作業、漆喰の強化、面としての再構成（接合）が中心である。平成25年度までは主に天井天文図の再構成を実施する予定で、その後、壁面の再構成を開始する（一部の壁面は25年度中に開始の予定）。

キトラ古墳壁画は、平成28年度を目処に、国土交通省が国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区内に新設予定の「体験学習館（仮称）」の「壁画保管施設」（当該部分は文化庁による設計・施工）における保存公開を目指し修理を実施しているが、修理（再構成）が完了した後では、当該文化財を遠方へ移動して公開することは技術的に困難になる。

これまで進めてきたキトラ古墳壁画の修理や、今後の保存活用の展開を広く国民に紹介し、一層の理解を得ることを主な目的として、壁面の再構成作業が本格化する直前であるこの機会に、東京での特別公開を実施する。

記

○キトラ古墳壁画の東京での特別公開（案）

期間 平成26年度前半（4月～5月の約30日間）

場所 東京国立博物館 本館特別5室

主催 文化庁・東京国立博物館・東京文化財研究所・奈良文化財研究所・
国土交通省・奈良県教育委員会・明日香村

共催 朝日新聞社

*出品対象については、現在検討中。

参考) 過去のキトラ古墳壁画展（いずれも飛鳥資料館にて）

平成18年度 「白虎」

平成19年度 「玄武」

平成20年度 「十二支像（子・丑・寅）」

平成21年度 「青龍・白虎」

平成22年度 「青龍・朱雀・白虎・玄武」

*平成25年度は1月に「白虎」等を展示する予定。

*上記以外に、国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開の中での公開がある。（平成23年度、24年度、25年度）